

地域医療連携の新たな潮流

ヘルスケア エグゼクティブ セミナー

主催：株式会社富士通総研

共催：富士通株式会社

FUJITSU

本格的な人口減少や超高齢化社会の到来で、地域での医療を中心としたヘルスケア体制の重要性が増しています。このことは地域医療の中心的役割を担う医療施設に対し、提供体制の強化、地域における医療機関の機能分担や連携強化の必要性をもたらしています。しかし、都市圏への医師の集中に対する過疎地・離島の医師不足、専門病院や症例数を持つ医療施設の偏在等で医療体制の地域格差が生じるなど、地域医療の環境は厳しくなっています。

本セミナーでは、自治体、医療に係わる経営幹部の皆様を対象に、地域医療連携の先進的な事例として、千葉県立東金病院の生活習慣病関連疾病の連携事例、千葉県八千代市の地域中核病院によるがんの連携事例、地域連携ツールとしての情報の可能性を紹介いたします。そして、これからの地域におけるヘルスケアのあり方をご一緒に探りたいと考えております。

14:00	開演
14:05~14:15	開会挨拶 長谷川 展久 (株)富士通総研代表取締役社長)
14:15~15:00	基調講演 近藤 俊之 氏 (千葉県病院局長) 地域連携におけるwin-winについて・千葉県立東金病院の事例から
15:00~15:40	講演① 城谷 典保 氏 (東京女子医科大学八千代医療センター副院長) がん患者とその家族に望まれる地域連携とは一急性期病院での試みー
15:40~15:50	休憩 (10分)
15:50~16:30	講演② 阿曾沼 元博 氏 (国際医療福祉大学教授) これからの地域連携ツールとしての情報ネットワークの可能性について
16:30~17:20	意見交換会
17:20~17:30	閉会挨拶 山路 雄一 (富士通(株)ヘルスケアソリューション事業本部副本部長)
17:30	閉演

* 17時45分より懇親会を予定しております。皆様のご参加をお待ちしております。

開催日時 2008年 2月 2日 (土曜日) 14時開演 (開場13時半)

会場 ホテルロイヤルオリオン (定員：最大64名)

費用 無料

●ホテルロイヤルオリオン

〒902-0067 沖縄県那覇市安里1-2-21 TEL：098-866-5533

●会場までのアクセス

沖縄都市モノレール (ゆいレール) 牧志駅より徒歩3分

お問い合わせ窓口

(株) 富士通総研 公共コンサルティング事業部
(瀬戸、湯川、吉本、名取)

TEL：03-5401-8396 FAX：03-5401-8439



講師御紹介

近藤 俊之（こんどう としゆき）

千葉県病院局長

1976年 慶應義塾大学医学部卒業。同年、慶應義塾大学病院臨床研修医及び横浜市立病院小児科。

1980年 厚生省入省、保健局医療課、統計情報局衛生統計課

1985年 秋田県出向、福祉保健部次長兼医務薬事課長

1988年 厚生省、保健医療局健康増進栄養課、同精神保健課

1990年 株式会社エスアールエル入社

1995年 同社代表取締役社長就任

2004年 同社取締役議長就任

2002年 東京エレクトロン株式会社社外取締役就任

2005年 独立行政法人国立健康・栄養研究所監事就任

2005年 株式会社みらかホールディングス取締役就任

2006年 千葉県病院局長就任。現在に至る。

城谷 典保（しろたに のりやす）

東京女子医科大学八千代医療センター副院長

1976年 関西医科大学卒業、同年東京女子医科大学第二外科研修医から助手

1982年 長野県飯山赤十字病院外科部長

1986年 東京女子医科大学第二外科入局

1991年 第二外科部長

1996年 同准教授

2004年 八千代医療センター副院長兼務

2006年7月 第二外科教授

2007年10月 八千代医療センター外科教授、副院長・外科診療部長に就任

日本臨床外科学会（評議員）、日本外科代謝栄養学会（評議員・学会誌編集委員）

日本静脈経腸栄養学会（理事）、日本在宅医療研究会（会長）等

阿曾沼 元博（あそぬま もとひろ）

国際医療福祉大学教授

1974年 慶應義塾大学商学部卒業、同年富士通株式会社入社。

1989年 医療情報学会理事就任

2000年 医療統括部長就任

2002年 国際医療福祉大学 国際医療福祉総合研究所に転じ、教授に就任。

総務省「政策評価・独立行政法人評価委員会」臨時委員、内閣府「規制改革民間開放推進委員会」

医療WG専門委員、三重県議会「県立病院民営化検討委員会」委員 等